

特集 異学年が関わることの重要性

皆さん、学びあってるか〜い！ そして、やればできるぞー！ 1, 2年生合同のチームが始まってしばらく経ちますが、活動は順調でしょうか？実は来年2月5日の本発表会までは、今日合わせても6回しかゼミがありません。気合入れて進めていきましょう！

さて、今回は異学年の関わりについて特集します。各ゼミでの取り組みも紹介したいと思います。

★ メンタリングとは（おさらい）

ティーチング → 答えを知っているひとが知らない人に答えを教える

メンタリング → 相手自身が答えを見つけられるように支援する

メンターは答えを知らなくてもいいのです。

メンティとの会話を通してメンティ自身の思考をサポートしていきます。

★ 異なる学年どうしが関わることの効果**【メンターにとってのメリット】**

- ① 自分の学び直しになって、自分の学びも深まります。
- ② 普段とは違う価値観を持つ他者に触れることで、自身の活動を客観的に振り返る（メタ認知と言います）きっかけになります。

【メンティにとってのメリット】

- ① 先輩の経験知を共有して、自分の探究活動に役立てることができます。
- ② 先生など歳の離れた人に相談しにくいことも、気軽に相談できます。

★ 何からはじめれば良いのか

2年生は、毎時間のゼミごとにきっちり1年生がその時間にどういったことを進めればいいのか指示してあげることが重要です。指示ができないということは、自分達がやろうとしていることがはっきりとしていなかったり、自分自身が研究の目的を理解できていないということではないでしょうか？

先輩からだけでなく、後輩からも声をかけてみましょう。「質問してもいいですか？」と後輩から声をかけてもらうことは、先輩たちにとって「頼りになる先輩」と認めてもらえたという喜びにつながります。

防災・数学ゼミのあるグループでは、先日2年生が1年生を連れて、防災食づくりを子どもたちに経験してもらうイベントを開催しました。

うまくいかかわからないことでも一緒に挑戦しようとすることで、先輩も後輩も多くを学んでいるのではないのでしょうか？

（右写真は実際に子どもたちに作り方を教えている様子）



警告

情報処理室・情報機器の利用

ゼミ中に皆さんの活動の様子を見ていると、うまく情報機器を使いこなして活動を充実させているグループがいる反面、関係のない用途の使用、不適切なサイトの閲覧が起きています。

「授業中にスマホで研究と関係ないゲームとかしてる俺たちすごくない??」

「SSHの時間に関係ないサイト見て遊んじゃったー。まじやべー。あー、まじやべー。」

そんなもん家でやってください。いつまで、中2病的な発想を引きずっているんですか？注目されたいのなら、結果を出して注目されましょう。

★ SSH 担当から

スマホ・PC・タブレットなど情報機器は、使い方を間違わなければ強力なツールです。SSH担当では、情報機器のポジティブな面、学習にすごく役立つことを皆さんが理解してくれるように、色々な企画を行っています。デジタル世界におけるあなたの行動は、永久に残ることを自覚し、足を引っ張らないようにしてください。